

## ペチュニアの小型容器栽培における草姿コントロール技術

### [研究のねらい]

慣行の花壇苗生産では9 cmポットを用いた栽培が主流ですが、ポットの小型化（7.5 cm および6 cm）を図ることにより、軽量化による労力の軽減や面積当たりの生産量の増加が期待できます。そこで花壇苗主要品目であるペチュニアを用いて小型容器での高品質生産を目指します。

### [研究の成果]

- ①肥料に被覆複合肥料（N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=14:12:14、140 日タイプ）を用いて小型容器栽培を行った場合、7.5 cmポットでは1.0 g/株以上、6 cmポットでは0.7 g/株以上の施肥量により、ポットサイズに対して十分な大きさの株となり、葉色も良好となります。
- ②密植栽培に伴う徒長を抑制するためには、7.5 cmポットでは0.8%、6 cmポットでは1.6%のダミノジット剤（植物成長調節剤）を鉢上げ1週間後とその2週間後に葉面散布することにより、ポットサイズに見合ったコンパクトな草姿に仕上がります（写真1）。
- ③施肥量の調節とわい化剤散布により、7.5 cmポットでは210ポット/㎡（9 cmポットの1.5倍）、6 cmポットでは288ポット/㎡（同2倍）、の密植栽培が可能となります。また、小型容器苗では1ポット当たりの重量が、これまでより約40%~60%軽量化されます（図1）。

### [成果の活用面・留意点]

- ①小型容器を用いた密植栽培により単位面積当たりの生産量の増加が図れるとともにポット重量の軽量化による労力軽減が図れます。



写真1 小型ポットで育成されたペチュニア

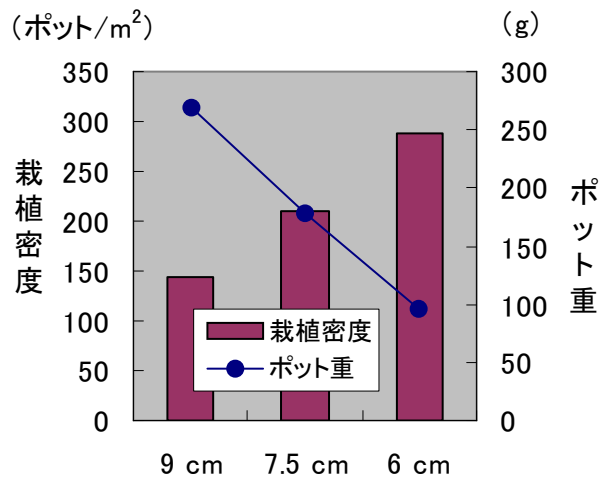


図1 ポットサイズと栽植密度およびポット重の関係

実施年度：平成9~11年度

担当者：島 浩二・本田孝志・岡本晃久・妹尾明枝